

2 - 2 . 北側境界条件の検討

第2回委員会では2000年1月～2001年7月までの観測結果を再現する解析モデルが得られた。ここでは更に精度の高いモデル構築を目的として解析エリアの北側境界条件の再検討を行う。

これまで北側の境界条件を第1～第3帯水層のいずれも水位固定としていた(ケース)が、第1帯水層を流入無し条件とし、第2,第3帯水層を水位固定条件としたケース(ケース)で同様の解析を行い両者を比較する。

表 2-2 境界条件の内容

計算ケース	境界条件	設定内容
ケース	水位固定	解析エリア内の水の状態に関係なく常に境界の水位は一定。
ケース	流入無し	解析エリア内外の水の流入や流出がない。境界の水位は変動する。

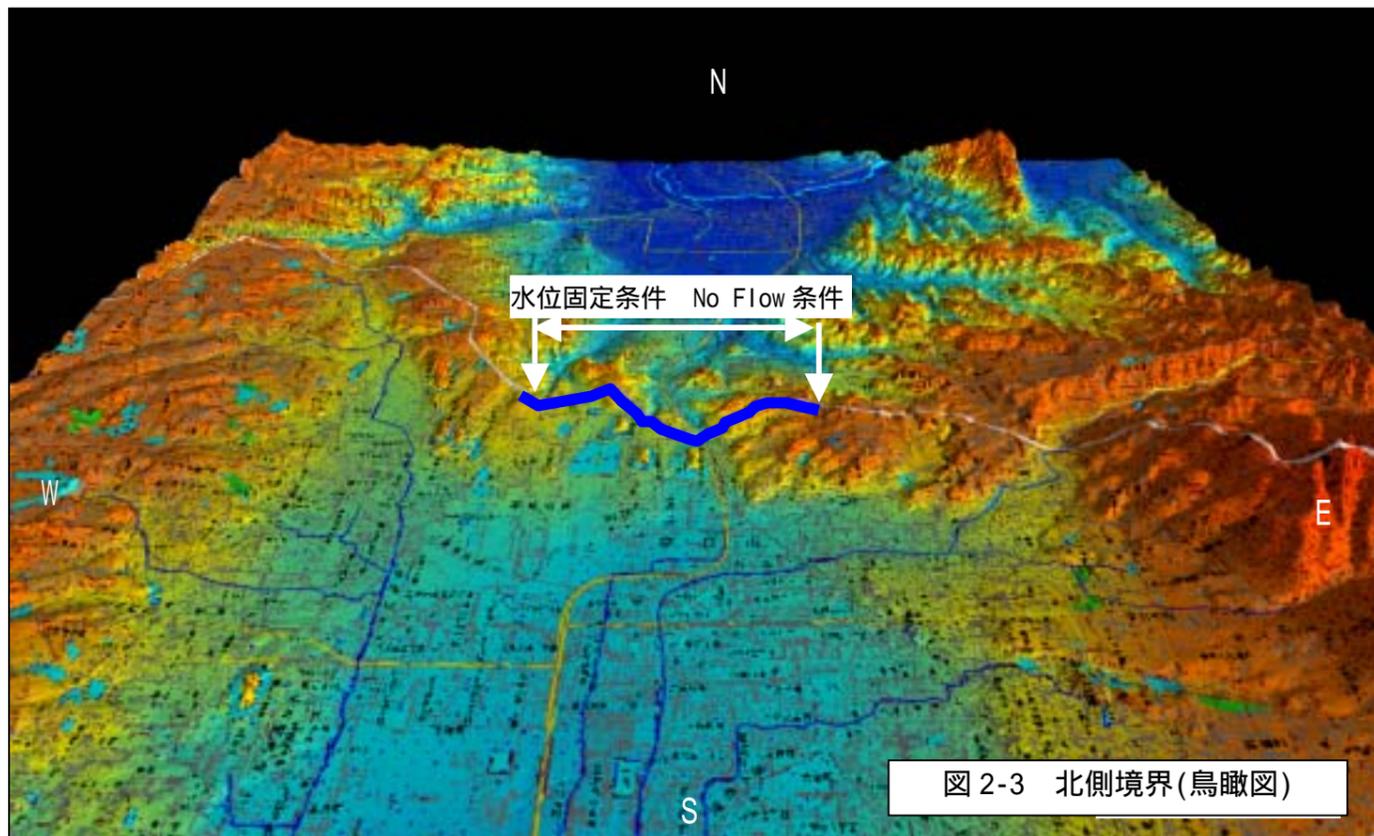


図 2-3 北側境界(鳥瞰図)

第1帯水層は、北側境界付近が分水嶺にあたり地下水が解析領域内に流入しないものと考えられる(図2-4)。

第2,第3帯水層を含む大阪層群は、北側境界よりもさらに北側に北-南の勾配を持ったまま連続しており、地下水が解析領域内に流入するものと考えられる(図2-4)。

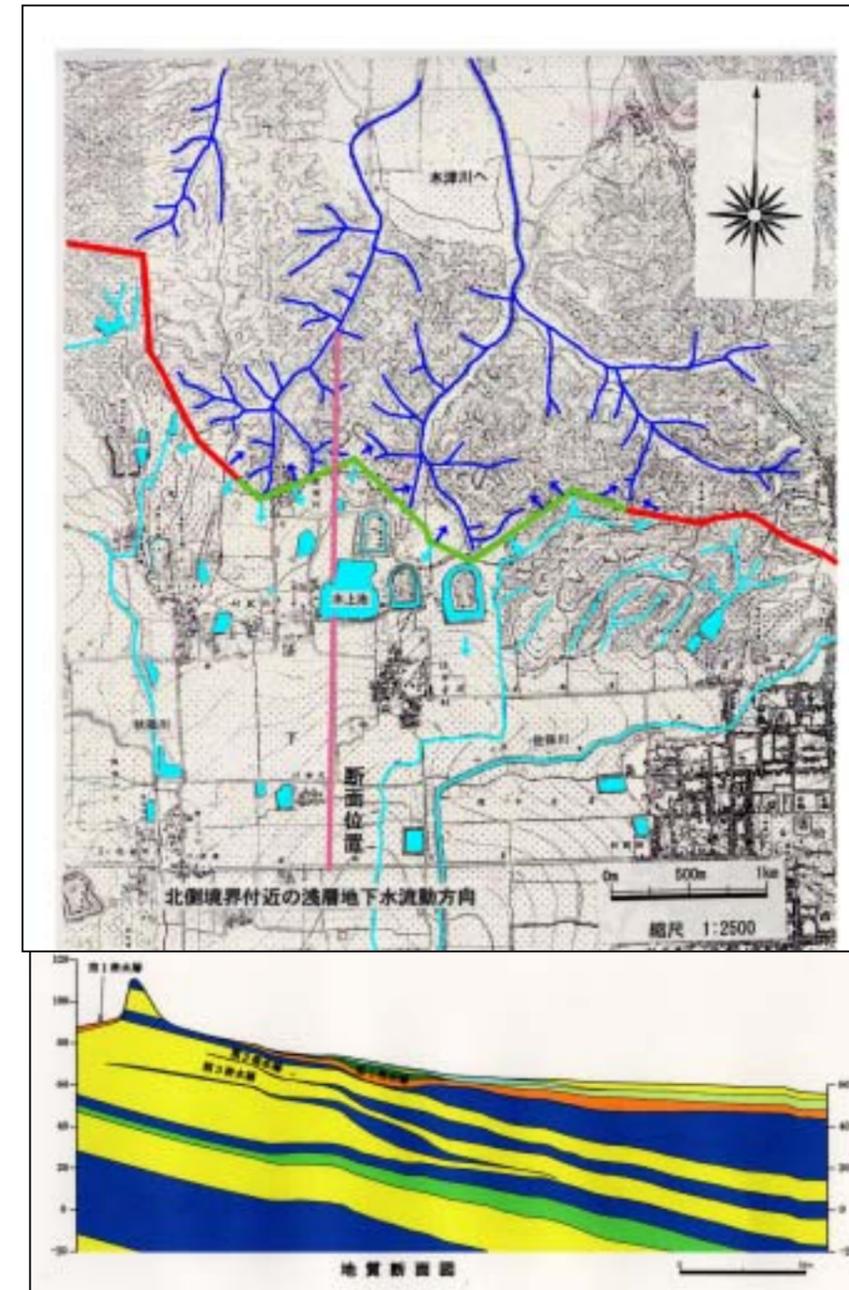


図 2-4 北側境界付近平面図と地質縦断図

ケース の設定根拠は以下の理由による。